

平成23年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
(平成23年4月～平成24年3月)

平成24年7月
国東市教育委員会

点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正において、教育委員会の行政の執行状況について、点検・評価を実施することが義務付けられました。これは、教育委員会の効率的な教育行政の推進を資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が、①毎年、②教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理執行状況について、③教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行うこととし、④その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

国東市教育委員会としては、第1次国東市総合計画の基本目標を基に、次代を担う人材を育成し、だれもがともに学ぶ、地域の伝統を次代につなぎ、国東市らしい文化の創造に向け、“歴史が息づく人と文化のまち”を目指し実施した取り組みについて、自己点検・評価を行い、評価内容の客観性を確保するために、国東市教育委員会評価委員から今後の教育行政の推進について意見・提言を受けました。これらを「平成23年度 教育委員会点検・評価報告書」としてまとめ公表することとします。

このたびの法改正に基づく教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らが事後にその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向性についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

平成24年7月24日
国東市教育委員会

点検及び評価の構成

(1) 項目

点検・評価は、「1. 教育委員会」、「2. 生涯学習の振興」、「3. 学校教育の充実」、「4. 青少年の健全育成」、「5. 地域文化の振興」、「6. 生涯スポーツの振興」の6つの大項目を基本として、必要に応じて細分化し、それぞれの分野ごとに点検・評価を行いました。

(2) 進捗・達成状況

平成23年度（平成23年4月～平成24年3月）の進捗及び達成状況をパーセンテージで表しています。既に事業を終了している項目や、達成している項目については、100%という表示になっています。

(3) 評価

進捗・達成状況を踏まえて、課題等を項目別に評価をし、ランク付けを行ないました。評価の判断基準は次のとおりです。

評価	判断基準
A	成果が上がり目標を十分達成している
B	一定の成果が上がっているが取り組みを強化する必要がある
C	取組みが不十分で改善の必要がある

(4) 知見の活用

点検・評価に対して、国東市教育委員会評価委員からご意見を頂きました。ご意見を頂いた方々は、次のとおりです。

委員長	足立和久氏
委員	今富英二氏
委員	信原英治氏
委員	石川美恵子氏

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
教育委員会	(1) 教育委員会の活動						
	教育委員会の会議の開催	定例会(毎月1回計12回) 臨時会(1回) 計13回開催	会議前に会議資料を送付し事前検討。精力的な論議ができた。		100	A	
		会議録の作成	前回の会議録を事前に送付し委員会時に確認・承認。慎重な論議ができた。		100	A	
	教育現場の実情把握(学校訪問)	教育委員による学校訪問(6月)、学校諸行事参加	学校訪問では、学校現場の実情を把握し委員の意見を集約した。また、運動会・閉校記念式典などの学校諸行事に参加した。	学校訪問では学校数が多いため時間的な余裕がない。	100	A	
	社会教育委員との合同会議	社会教育法の趣旨に則り実施	12月定例会終了後開催(H23.12.21)	事前協議を行い活発な意見が出された。	100	A	
	広報・情報公開	ホームページによる議案・協議内容要旨公開	毎月実施(毎月更新)	議案内容も公開する必要がある。	100	B	
	教育委員の改選	男女共同参画社会実現に資するため教育委員5名のうち1名に女性を選出	女性教育委員を選出した		100	A	
	(2) 教育委員会が管理・執行する事務						
	市教育行政の基本方針を定めること	国東市学校・園教育環境整備計画の推進					
		国東町3小学校区の地元説明会の実施	来浦・大恩・豊崎小学校はH24年4月の統合に地元の合意を得て大恩小・来浦小は富来小学校と、豊崎小学校は国東小学校と統合が決定した。また、幼稚園については、「国東市公立幼稚園・保育所等あり方検討委員会」を開催し、平成24年1月に答申を頂いた。	「国東市立幼稚園・保育所等あり方について(答申)」を尊重した整備計画を策定する必要がある。	100	A	
	教科書その他教材の取り扱いに関すること	平成24年度使用教科用図書の準備	平成24年度より使用される中学校指導書及び指導資料の準備が完了した。		100	A	
	教職員の人事に関すること	大分県教育委員会の方針に基づき配置(3月)	平成23年度は3校(来浦小・大恩小・豊崎小)の閉校があったが過員状態になることなく人事異動が出来た。		100	A	
	事務局及び学校その他の教育機関の職員の任命その他人事に関すること	3月末職員人事異動			100	A	
	教育委員会の附属機関の委員の委嘱に関すること	国東市中心障害児就学指導委員会委員の委嘱	12名に委嘱(医師、学校教育関係者、識見を有する者で構成)				
		第4回教育委員会にて承認	12月就学指導委員会を開催し、対象児童生徒を調査し適切に対処した		100	A	
	委員会の規則等の制定又は改廃に関すること	規則・規程等の制定、改正を行った。	規則制定、改正 17件 規程制定、改正 5件 要綱制定、改正 9件		100	A	
	議会の議決を経るべき議案の原案決定に関すること	条例の制定、改正の原案決定を行った。	条例の改正 9件		100	A	
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項の規定による点検及び評価に関すること	教育委員会の職務執行状況の点検及び評価を行った。	H24年3月議会(H24.2.2)にて議長へ報告	評価委員を選定し学識経験者の知見を活用する。	100	A		

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	(1) 特色ある生涯学習プログラムの整備と提供						
	社会教育委員会の開催	4回開催 県の研修会、九州地区研修会に参加	・平成23年度社会教育計画の策定に向けて意見や補助金のあり方について意見をいただいた。 ・教育委員との意見交換会開催	社会教育委員会の開催時期や協議内容について、時間的制限の中で検討していく必要がある。また、課題について社会教育委員会議として研究・調査等を行っていくことが求められる	80	B	
	公民館運営審議会の開催	国見(1回3月開催)		平成23年度の総括、平成24年度の取組みについて意見交換を行った。	地区公民館との連携、事業分担等の協議が必要である。	50	B
		国東(2回開催)		平成23年度の総括、平成24年度の取組みについて意見	現在4中央公民館ごとに開催している中央公民館長の諮問機関としてこのまま継続したい。	80	B
		武蔵(1回開催)		平成23年度の総括、平成24年度の取組みについて意見	地区公民館との連携、事業分担の協議が必要	100	A
		安岐(1回3月開催)		開催せず	新しい地区公民館活動内容と地域の連携 年2回の開催実施目標	0	C
		公民館講座(公民大学・くにさき塾等自主講座)		4中央館合同での募集実施	募集チラシについて、講座の内容がより分るよう検討していく必要がある	100	A
	自主講座の活動発表						
		国見:文化芸能発表会(11月13日みんなかん)		文化協会と合同で学習成果の発表会・作品展示等を行った。	学級生の高齢化等により受講者数の減少が顕著なため、新規加入学級受講者の確保の必要がある。(地域事情等を考慮して組織的に取り組む必要がある。)	90	A
		国東:くにさき生涯学習フェスタ		2/12フェスタ開催:入場者数500名	小中学生の作文応募数がほとんどない。 例年を上回る入場者を得たが、さらに集客努力を行い、広く生涯学習の広がりを構築していく必要がある。	85	A
		武蔵:武蔵カルティバ(2月18.19日実施)		発表団体、作品展示数の増	小学生(子供会)の作品応募・発表参加が減少傾向にある	100	A
		安岐:公民館まつり(3月開催)		1年間の学習成果の発表	芸能発表と作品展示会場を分離し開催、作品展示について減少傾向にある	100	A
	公民館活動	館長・主事会議の開催					
		国東市16館全体会議(館長・主事会議:年3回)		館長・主事を中心に生涯学習を通じた地域活性化に向けて意識の統一が図れた。	地区館毎の活動に温度差も見られる。引き続き地域性を重視しながら市全体として方向性を確認しながら活動をつなげていかなければならない。	90	B
		国見地区(4回)		3館の事務打ち合わせ、事業報告、事業計画協議、情報交換を行った。先進地研修・視察(2月29日～3月1日・佐伯市)を実施した。	地域性等の各地区公民館の特徴を考慮した活動を実施する必要がある。	90	A
		国東地区(1回)		6館の事業報告、情報交換	情報交換による更なる活性化を図る	90	B
		武蔵地区(12回)		2館の事業報告、情報交換	地域活性化のための地区公民館行事の実施	100	A
		安岐地区(毎月20日実施)		5館の事業報告、情報交換 各地区館とも地域に根ざした活用をするようになった	更なる充実・活性化を図る必要がある	100	A
		地区公民館活動					
		共通	地区公民館活動交付金	平成21年度から16地区公民館に活動交付金を給付し、地域性を考慮しながらの地域生涯学習の推進に役立っている。	交付金の交付を始めて3年目を迎えるため、交付金の活用状況について詳細な調査・検討を考たい。	80	B
			地区公民館活動推進委員会の開催	地区内の区長、学校関係者、PTAほか各種団体等の代表により、地区公民館の年間行事等を企画。地域独自の有効な事業を企画している。	地区公民館を拠点とした地域活性化に向けた諸施策の企画運営。地区公民館によっては運営委員会の十分な機能が図られていない状況も見られるため、館長・主事研修等を充実させる必要がある。	90	B

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	公民館活動	文化行事 (竹田津) ・花いっぱいによるおもてなし運動の実施 ・地区内の伝統行事(巫女舞)の継承活動の支援 ・自主講座の推進 国見	地区公民館活動の周知が地域に広がりつつある。	継続性のある企画・立案を行う必要がある。	80	A
		(伊美) ・花いっぱい運動(プランター・土・花苗の配布)の実施 ・歴史探訪歩こう会の開催	地区公民館活動の周知が地域に広がりつつある。	継続性のある企画・立案を行う必要がある。	80	A
		(熊毛) ・地区公民館だよりの発行 ・花いっぱい運動(プランター配置)の実施 ・三世代ふれあいハイキングの開催 ・高齢者教室の開催 ・史跡探訪ウォーキングの開催 ・しめ縄作り教室の開催 ・陶芸教室の開催 ・民謡教室の定期開催 ・熊毛地区大演芸祭の実施 国見	大演芸祭は、地域の子ども会・他地区からの交流出演等出演団体も増え、会場は超満員で、熊毛地区公民館の看板行事として定着しつつあり、地域に楽しい話題が提供できた。 新しい教室も開催し、よりバラエティに富んだ活動が展開された。	文化部の専門部を中心に企画・運営を実施した。各行事とも、反響が想像以上に良いため、今後も努力を続けて欲しい。	100	A
		(来浦) ・総合文化祭(小学校と合同)の開催 ・神楽保存継承 ・高齢者大学の開講	中学校廃校に伴い、単独の開催となった	小学校統合後の地域行事の持ち方 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(富来) ・地区文化祭の開催 ・地区内納涼盆踊りの実施 ・高齢者大学の開講	中学校廃校に伴い、中学との合同文化祭から単独開催となり、廃校跡地で納涼盆踊りを開催し地区内の調和につながられた	小学校統合後の地域行事の持ち方 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(上国崎) ・地区文化祭の開催 ・高齢者大学の開講 ・納涼盆踊り大会の実施 国東	小学校統合後の地域づくりにむけて「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識をもったリーダーが生まれ始めている。	小学校跡地の管理と利用	80	B
		(豊崎) ・地区文化祭の開催 ・地区館主催の歴史を学ぶ会の開催 ・高齢者大学の開講	地区公民館主催の歴史を学ぶ会が発足した。地域主導型の生涯学習講座として重要な意義があると思われる。	小学校統合後の地域行事の持ち方 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(国東) ・新春お楽しみ会の開催 ・今在家、興導寺地区の文化祭に助成 ・高齢者大学の開講	世代間、行政区間の交流が活発になった。	対象人口が多く、統一的な事業実施が難しい。 より多くの人が参加できるような広報活動の充実	80	B
		(旭日) ・高齢者大学の開講 ・広報誌発行 国東	幼・小・地区合同開催が20回目の開催を目指していたが、小学校体育館の耐震補強工事の関係で、今年度は中止。 広報誌の発行は3回。	地区ない行事を周知するため、広報誌の恒常的な発行。	80	B
		(武蔵西) ・武漢学級(高齢者学級)の開催 武蔵	年10回開催 高齢者の健康維持と生きる力となっている。	地域を支えていくための“人づくり”が必要である。	100	A
		(武蔵東) ・れんげ学級(高齢者学級)の開催	年10回開催 高齢者の健康維持と生きる力となっている。	学級の参加を増すための送迎が困難である。	100	A

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	公民館活動	安岐 (西武蔵) ・第23回梅園祭 ・第3回まんぶく祭 ・地区館各種講座	・地区内外の多数の参加を得ることができた。午後ゲートボール、短歌会の開催 ・地域の祭り、市内の行事、運動会等で披露 ・地区団体が地区館と連携しながら活動中	・参加者の高齢化。移動手段の確保。小中学生や一般若年層への呼びかけ企画検討。 ・地区イベントや団体個々の活動に取り組んでいるが、参加人数が固定化されつつある。 ・広報活動の充実	100	A	
		(朝来) ・第88回朝来地区公民講座 ・第23回朝来地区盆踊り大会	・講演会、スポーツ大会の実施	・講師の選定 ・高齢者の交通手段の確保	100	A	
		(西安岐) ・各種学級、講座、地区公民館まつり ・講演会(郷土の偉人:田村淳) ・見立て細工	・自主サークルにより趣味を伸ばす ・多くの参加があった ・各種団体の参加が多くなった ・多くの参加があった ・スポーツ少年団の参加があり、大いに盛り上がった	・雪による延期 天候の対応 ・予算があると盛会になる ・宣伝に工夫が必要	100	A	
		安岐 (安岐) ・生涯学習講座発表会(楓江ふれあいまつり) ・食育(親子調理実習、おせち料理、男性料理教室) ・地域探訪ウォーキング ・公民館講座の推進 ・公民館たより発行	・芸能発表、作品づくりに目標をもって取り組む姿が見える。 ・みんなで協力して大会を成功させようとする姿がある。これこそ地域活性化である。 ・参加者から喜びの声を多く聞いた。生活上と互いの交流に成果あり。 ・公民館便りは毎月発行、全戸配布	・呼びかけの工夫をしたい。	100	A	
		(南安岐) ・地域史跡探訪 ・伝統行事の継承(盆踊り大会) ・向陽文化祭、神事講演発表会 ・森林体験教室	・実行委員会やボランティアにより、十分な取り組みが出来た	継続性をもって実施	100	A	
		体育行事					
		(竹田津) ・地区体育大会の開催 ・卓球大会の開催 ・世代交流グラウンドゴルフ大会の開催	長年続けてきた地区体育大会をより発展的に開催でき、さらに卓球大会・グラウンドゴルフ大会では幅ひろい年代間の交流ができた。	さらに、活動を広げていきたい。具体的には健康歩こう会等を計画したい。	90	A	
		国見 (伊美) ・小・中学校運動会での地区公民館主催競技種目を実施 ・公民館長杯グラウンドゴルフ大会を開催(2回) ・国東市駅伝競争大会への支援	地域に地区公民館活動の周知ができ、地域の協調性が再認識できた。	全地区からの参加が得られるように、参加者の募集方法・参加形態等検討する必要がある。	90	A	
		(熊毛) ・三世代ふれあいグラウンドゴルフ大会の開催 ・小学校運動会と共催による地区民体育大会の開催 ・バドミントン・卓球教室の定期開催 ・国東市駅伝競走大会への支援	三世代の年の開きを補いつつ大会運営がなされ、グラウンドゴルフ大会では交流会も地域ごとに楽しくできた。	体育部の専門部を中心企画・運営を実施した。各行事とも、反響が想像以上に良かったため、今後も努力を続けて欲しい。地区民体育大会については、小学校との大会運営に関しての十分な協議が必要である。	90	A	
		国東 (来浦) ・小学校との合同運動会の実施 ・地区内軽スポーツ大会の実施 ・市駅伝大会への参加	特に小規模校においては児童生徒の負担軽減が図られ、地区民も子どもと一緒に活気に満ちた大会となった。また軽スポーツやミニラリー、ゲートボール等楽しみながら健康増進を推進できた	中学校統合後の地域行事の持ち方 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B	
		(富来) ・軽スポーツ大会の実施 ・市駅伝大会への参加	中学統合に伴い、中学校との合同運動会から軽スポーツ大会に切り替えた	参加する地区民の数を増やしていく 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B	
		(上国崎) ・地区民体育大会の実施 ・各種軽スポーツ大会の実施	小学校廃校後最初の体育大会であったが、多くの地区民の参加の元盛大に開催できた	小学校廃校により、一般地区民のみの体育大会を実施したが、今後これを継続できるかが焦点。	80	B	

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	公民館活動	(豊崎) ・小学校との合同運動会 ・地区内軽スポーツ大会の実施	特に小規模校においては児童生徒の負担軽減が図られ、地区民も子どもと一緒に活気に満ちた大会となった	小学校の統合による運動会の開催方法 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(国東) ・各種軽スポーツ大会の実施(グランドゴルフ、ゲートボール、ミニバレーボール) ・市駅伝大会への参加 ・小学校運動会への参加	体育大会は実施できなかったが、各種の軽スポーツ大会が実施でき、地区民の健康増進に貢献	行政区数が多く、大会の開催に苦慮しているが、地区内健康増進のため、軽スポーツ大会等の開催に努めていく必要がある	80	B
		(旭日) ・小学校との合同運動会 ・地区内軽スポーツ大会(グランドゴルフ、ミニバレー、ゲートボール)の実施 ・市駅伝大会への参加	体育大会は、雨天のため午前中で途中中止となった。(小学校は残り種目を単独開催)また軽スポーツの推進で地区内の調和と健康の増進が図れた。	軽スポーツは参加者が限定される傾向にあるため、多くの地区民への呼びかけが必要。	80	B
		(武蔵西) ・小学校との合同運動会 ・スポーツクラブ 駅伝大会 ・市内一周駅伝大会参加 ・土曜スクール ・グラウンドゴルフ教室	合同で体育大会を開催することで地域の方々と、学校との交流が深まり、地域に活力が生まれた。又、軽スポーツ大会等を開催することで、高齢者の健康維持とふれあいが図れた。	指導者の確保と事業を行う際のボランティアの養成。	100	A
		(武蔵東) ・スポーツクラブ 駅伝大会 ・市内一周駅伝大会参加 ・スマイルリング大会 ・グラウンドゴルフ教室	地域の中で体育行事に対して参加をしよう、協力をしようとする意識が広がった。	指導者の確保と事業を行う際のボランティアの養成。	100	A
		(西武蔵) ・ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会 ・軽スポーツ大会活動	・地域の接点、活性化を図る場となっている。	・高齢化と子どもの減少	100	A
		(朝来) ・スマイルリング大会 ・ゲートボール大会 ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グランドゴルフ大会	・多くの参加で、地域の活性化を図ることが出来た。	・人集め ・雨天時の対応	100	A
		(西安岐) ・館長杯バドミントン大会 ・館長杯ゲートボール大会 ・館長杯グランドゴルフ大会 ・からす市駅伝 ・ミニバレーボール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	・チームが減少傾向にある ・少子、高齢化によりチーム減少 ・多くの参加と宣伝の工夫 ・婦人会活動の活性化	100	A
		(安岐) ・公民館長杯ゲートボール大会 ・ふれあいグランドゴルフ大会 ・青少年駅伝大会 ・軽スポーツ大会	・ゲートボールをする人の交流・親睦ができた。 ・初心者への参加もあり、楽しくできた。互いの交流の機会になり、来年も是非と言う声が多かった。 ・国東市駅伝競走大会の練習を兼ねて、標記の大会に参加した。子どもたちはそれに向かってしっかり練習するので目標を持った練習ができた。	・地区内で各行事に対して、協力し合える体制が出来つつある。	100	A
		(南安岐) ・軽スポーツ大会 ・健康作りリョク ・夏休みラジオ体操会 ・向陽祭記念ゲートボール大会 ・館長杯ゲートボール大会	・親睦と健康づくりを図ることが出来た。	事業の継続実施	100	A

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がりに目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯学習の振興	公民館活動	青少年健全育成事業				
		(竹田津) 青少年健全育成竹田津地区協議会への助成・活動支援 ・交通安全指導・パトロール活動の実施 ・稲刈り・芋ほり・炭焼き体験学習の実施 ・竹っ子ふれあい収穫祭の開催	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活動が展開された。 ふれあい収穫祭では、老人クラブ等地域との和やかな交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年度から導入された地区公民館制度と事業推進をしていくなかで、三者が交流をし、よりよい対応を探ることが必要である。	90	A
		(伊美) 青少年健全育成伊美地区協議会への助成・活動支援 ・交通安全指導・校区内クリーン運動の実施 ・福祉施設・公共施設等訪問の実施 ・高齢者とのふれあい交流会の開催	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活動が展開された。 ふれあい収穫祭では、老人クラブ等地域との和やかな交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年度から導入された地区公民館制度と事業推進をしていくなかで、三者が交流をし、よりよい対応を探ることが必要である。	90	A
		(熊毛) 青少年健全育成熊毛地区協議会への助成・活動支援 ・登下校見守りボランティア活動の実施 ・各地区敬老会への参加、独居老人宅・施設訪問の実施 ・稲刈り・芋ほり体験学習の実施 ・熊毛っ子祭り・ちびっ子料理教室の開催	学校・地域・家庭三者による地域ぐるみの子育て支援活動が展開された。 熊毛っ子祭りでは、老人クラブ等地域との和やかな交流が図られた。	学校と地域との協調性はよく保たれている。平成21年度から導入された地区公民館制度と事業推進をしていくなかで、三者が交流をし、よりよい対応を探ることが必要である。	90	A
		(来浦) ・ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) ・3世代交流事業(収穫祭) ・来浦ふじ登山 ・来浦歴史教室 ・子ども会活動支援	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少により事業の検討が必要 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(富来) ・ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) ・3世代奉仕活動の実施	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	中学校廃校による中学生の参加	80	B
		(上国崎) ・ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) ・環境美化運動(世代間交流) ・ふれあい雄渡牟礼登山	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	小学校の廃校に伴い、地区内の子どもとどう接点を設けるかが課題。 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(豊崎) ・ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) ・3世代ふれあい事業(ハーフゴルフ) ・平和学習(小学校との共催)	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少により事業の検討が必要 地域住民との十分な話し合いによる解決方法の模索	80	B
		(国東) ・ゆめさき体験スクール(毎週1回開催) ・3世代交流クラフト大会の開催 ・会報「くにさきっ子」発行 ・奉仕作業	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	地区内が広いため、今後エリアを分散しながら各種事業を検討していく必要がある	80	B
		(旭日) ・ゆめさき体験スクール(毎月1回開催) ・文化財愛護少年団(旭日小学校)との交流事業 ・3世代交流事業(4区で開催) ・放課後児童クラブを地区館で実施	世代間交流を行うことで、子どもたちにとって地域の人たちが身近な存在となり、安全安心の地域づくり、子どもの健全育成に効果が見られた。	子どもの減少と両親の共働き等の影響で放課後の子ども対策として、公民館を拠点として放課後児童クラブ、学びの教室等の各種事業を学校と連携して実施していく。	80	B

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	公民館活動	(武蔵西) ・子ども教室の開催(毎月1回開催) (体験学習等) ・土曜スクールの開催(毎週開催) (ドリル学習)	地域の学校は、地域で守り、育てようとする活動の輪が広がり、学校との連携もより良い方向に進んでいる。	地域を支えていくための“人づくり”が必要である。	100	A	
		(武蔵東) ・子ども教室の開催(毎月1回開催) (体験学習等)	地域の学校は、地域で守り、育てようとする活動の輪が広がり、学校との連携もより良い方向に進んでいる。	地域を支えていくための“人づくり”が必要である。	100	A	
		(西武蔵) ・三世代ふれあい活動 ・親子ふれあい事業	・梅園ウォークへの参加 地域の識者に梅園先生の話の聞きながら親子、地域の方々と歩くことでふれあう。 ・夏、冬休み中に3世代による空き缶拾いや道路清掃。 ・夏休み、地区の空き缶回収。その後ハ－ェキリでふれあう。	・参加年齢に幅があり、今回参加は4kmコースだったが、今後は他の企画も含めて検討要。 ・各家庭の都合もあり日程調整が困難。 ・空き缶回収については、区や地区民の協力は大きかった。後のハ－ェキリの参加増員がもう少し欲しい。	100	A	
		(朝来) ・世代間交流グランドゴルフ大会 ・カルタ大会	・幼、小、中、一般参加	・人集め、日程調整	100	A	
		(西安岐) ・三世代グランドゴルフ大会 ・安岐中コンサート ・安岐中央小芸術鑑賞会 ・各地区子供会 新入生歓迎会	・祖父母と子どもの親睦 ・情操教育 ・子どもの健全な成長を願う	・宣伝方法の工夫 ・予算増を願う ・少子化により子供会が減少傾向	100	A	
		(安岐) ・子どもの下校時の見守り ・老人会へのお願い ・ハト－ールの計画表の作成 ・車両用ステッカーの購入 スリーマン活動支援 子ども盆踊り大会 ・ふるさとを愛する子どもになって欲しいとの願いから子どもが参加する盆踊り大会を行った。 ・子どもと地域の大人の盆踊りでのふれあいを願い、地域にも呼びかけた。 三世代ふれあいゲ－トボール大会 子ども科学教室 読み聞かせ	・老人クラブの方で見守り隊を結成して、活動してくれた。地域全体で見守ろうとする気概ができてきた。 ・安岐小のスリーマン活動を地域でも行うことで、スリーマン意識の高揚が図られた。 ・多くの子どもが参加し、盆踊りを体験することができた。 ・地域の人に教えてもらいながら踊れた。地域の人との交流ができた。 ・口説きを大人が子どもに夏休み中、1ヶ月ぐらいかけて指導してくれた。 ・ゲ－トボール協会の協力で、多くのチームを出せて、多くのふれあいができた。いろんな年齢層の人と触れ合うことは、子どもが自立した大人 ・つり橋を長くする工夫を3日間にわたり学習 科学への意識 ・毎週金曜日に安岐小において実施し情操教育の一旦を担う	・人集めと日程調整	100	A	
		(南安岐) ・三世代ふれあい行事 ・森林体験教室(妙見山登山) ・南安岐グランドの清掃作業 ・芸能発表会の練習	三世代スポーツ大会実施 樹木の名前と働きについて実習登山(中学1年生、老人クラブ等) 小学生と供に清掃作業 子供会の出演のための練習	各種事業の継続実施	100	A	
		女性学級の実施					
		女性教育	国見:1学級	実施なし。	定期開催の実施、幅広い学習プログラムを検討する必要がある。	0	C
			国東:学級生53名(毎月開催)	女性教育の一助 人権研修を含め、各方面の講師による講演を実施	学習成果の実践活動	90	B
武蔵:学級生19名(毎月開催)	女性教育の一助		学習成果の実践活動	100	A		

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	成人(高年)教育	高齢者学級の実施					
		国見:1学級	実施なし。	会員の減少があり、新規学級生の確保を図るため、老人クラブ・地区公民館との連携の必要がある。	0	C	
		国東:6地区館	各館9回実施(学級生計951名) 高齢者の学習活動支援 各館8回の送迎バスの運行	交通手段が確保(バスの優先的運行)されなければ開校がままならない	90	B	
		武蔵:2学級	各10回開催・幅広い学習の展開が出来た。	交通手段・男性学級生の募集	100	A	
		安岐:自主講座	安岐:8講座・各年10回開催	高齢の為、交通手段の確保が問題	100	A	
	家庭教育	家庭教育の推進					
		家庭教育支援(講師謝金等) 家庭教育講演会の開催	市内小学校保護者を対象に家庭教育講演会を2回実施。 家庭教育学習会(国東小1回、富来小2回、大恩小2回)の実施。	利用率が低い。全小学校に周知促進 市内各小学校への普及及び家庭教育講演会への参加促進	100	B	
		安岐:1学級の実施	・核家族化で、子育てに悩む親の参考になった。	・父親の参加、子連れで参加した場合の保育 ・講師の選択	100	A	
	社会人権・同和教育	社会人権・同和教育の推進					
		くにさき地区人権・同和教育協議会	年2回の研修会と先進地視察を実施。先進地(延岡市)視察ではフィールドワークや企業人権研修で実態を学び、人権教育・啓発の重要性などを再認識した。 5/31、3/16 講演会 11/17-18先進地視察研修(延岡市塩浜地区・旭化成他)	構成団体は、姫島村及び国東市。実施事業に対し姫島村からの参加は少なく、また事務局は常に生涯学習課が担当している。組織としては、合併前の「東国東郡人権教育研究協議会」を引き継いだものであり、姫島村に「人権教育啓発推進協議会」が組織されれば不要となる。	100	B	
		国東市人権・同和教育啓発推進協議会の運営	主管課は人権・同和对策課。今までの支部組織の見直し地域の実情に合わせた人権教育・啓発を行うこととした。21年度から市内4地域で人権フェスティバルを開催し市民への人権意識の高揚を図ることができた。	人権フェスティバル3年目の国見、国東及び安岐では昨年以上の成果を上げることも出来たが、地域に根づいたものにするためには内容等についてなお検討する必要がある。	100	B	
		行政区別人権学習会	市内全行政区で同一テーマで、同一の内容(国東市人権意識調査・同和問題・障がい者問題)や使用する教材についても、統一して取り組んだ。また、開催単位については従来どおり行政区単位とし、市内のほぼ全ての行政区で学習会を開催することができた。	同和問題に対する認識が有るものの依然として「寝た子を起こすな」論が根強い。学習案の更なる精査が必要と考える。参加者については、依然高齢者が中心であり、今後も増加は見込めないのではなかろうか。様々な機会や団体等に働きかけ幅広い層に学習機会を提供する必要がある。	100	B	
		中学生・高校生人権コンサートの開催	12/16安岐中学校(願児我楽夢)350人 生徒、保護者、教師 外 2/14国東高校(榎野剛)500人 生徒、保護者、教師 外人権形成に大切な成長期の人権教育の推進に寄与できた。	年々人権バンドの活動団体が少なくなっており、出演者を探すのに苦労する。市内で発足するような働きかけができるとうまい。	100	A	
	人権・同和の啓発活動	市報に毎月1ページの紙面をもらい人権に関する記事を掲載し啓発に務めている。また、8月の運動月間、12月の運動週間に啓発チラシを作成し、全戸配布した。	市報については、内容についても豊富になったと考える。今後は、市のホームページを利用した啓発も考える必要がある。	100	A		

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
生涯教育の振興	図書館事業の推進	図書館協議会の開催 ・第1回協議会開催(くにさき図書館) 7/21 H22年度利用状況及び事業報告 H23運営方針・事業計画の協議 ・第2回協議会開催(アスト3F会議室) 3/23 H23年度利用状況及び事業経過、H24主要事業等	図書館事業運営等に対して多くの意見、要望等があり、今後の取り組みの参考となった。	協議会の開催時期、内容、委員研修等	100	B
		図書館の事業 ・高齢者・障がい者向け本の宅配サービス事業 ・学校・施設向け本の配送サービス事業(1月から実施) ・ブックスタート事業(乳児健診、1歳6ヶ月健診時にボランティアと協働で読み聞かせを実施) ・ボランティアとの協働で各図書館ごとに読み聞かせ ・秋の読書週間行事 10/27～11/9(読書郵便、ブックリサイクル市) ・図書館広報紙「どくしょがいちばん」の発行(毎月)	・高齢者・障がい者向け本の宅配サービス事業は9月から実施し、登録者数17名、宅配冊数385冊、宅配回数41回行った。また、学校・施設向け本の配送サービス事業は1月から実施し、利用件数53件、配送冊数1,451冊である。これらの事業は図書館資料を有効活用し、利用者の拡大を図るために始めた事業であり、利用者には好評である。 ・読み聞かせや図書館まつり等ではボランティアとの協働で実施しており、参加者には好評だった。	利用者の利便性を考慮し多くの市民が利用してもらえる環境づくり及び事業の拡大 高齢者・障がい者向け本の宅配サービス事業は利用者が少ないため、更に広報活動を行い増やす必要がある。また、学校・施設向け本の配送サービス事業は学校との連携を図り効果的な利用方法を検討する。	100	B
		(国見図書館) ・子どもの読書週間「どくしょゆうびん」町内3小学校対象 ・「この夏読んでほしい本」リスト作成し、町内小学校に配布 ・秋の読書週間「オリジナルおりを作ろう」 ・県立図書館本の団体借入 ・おはなしひろば(ボランティア)月3回 ・折り紙教室の開催 1/22	「どくしょゆうびん」は他校の児童へ、おすすめの本を紹介してもらい、一定期間各校で貼り出し好評だった。秋の読書週間でも取り組んだ。また、県立図書館本の借入は楽しみにしている人が多い。折り紙教室は16名の参加があり節分をテーマに折り紙を製作し好評だった。	利用者の要望等を考慮しながら新規利用者を増やす取り組みが必要である。 県立図書館からの団体借入本は好評であり今後も継続。		
		(くにさき図書館) ・子ども読書週間の行事 4/23～5/12 ・新1年生の施設見学会、中学生の職場体験、インターンシップ、社会見学 ・「図書館まつり」を実施。8/21 ・「くにさき図書館クリスマス会」を実施。12/23 ・おはなし会(ボランティアとの協働)月2回 ・折り紙教室の開催 2/4	新1年生の施設見学会では町内全小学校が来館された。職場体験では3人、インターンシップ2人、日出支援学校1人が貴重な体験をした。 図書館まつり(参加者150人)、クリスマス会(参加者110人)で多くの子どもの参加があった。 折り紙教室では33人の参加者があり、雛人形づくりを行い好評だった。	新規利用者の拡大を図る。 各事業の集客数の増加につながる取り組み。 ボランティアの募集及び育成 おはなし会等参加者の増加推進	100	B
		(武蔵図書館) ・子ども読書週間行事(ぬりえで図書館を飾ろう)4/23～5/12 ・図書館イベント(夏休み工作教室8/10～11、クリスマス工作12/17) ・新1年生見学会(武蔵東小 5/27、武蔵西小 6/21) ・職場体験(武蔵中学校6/28～29、国東中学校11/10～11) ・インターンシップ(国東高校) 10/25～27 ・秋の読書週間(古本市ほか)10/28～11/9 ・おはなしのへや(ボランティアとの協働)月4回 ・映画会、出前おはなし会(すこやか館で年5回) ・折り紙教室の開催 3/24	・子ども読書週間行事は毎日来る子どもも居て好評だった。 ・図書館イベントは3回延べ23人参加。 ・読み聞かせ(図書館 40回、206人、すこやか館 5回、80人) ・新1年生見学会では2校で35名来館。 ・職場体験、インターンシップ 5人 ・映画会 3回、38人 ・折り紙教室では27人の参加があり、兜づくりをして好評だった。	図書館イベントの参加者が減少傾向にある。 新規利用者の拡大を図る。 各事業の集客数の増加につながる取り組み。 ボランティアの募集及び育成		

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	図書館事業の推進	(安岐図書館) ・こどもの読書週間(1日図書館員になろう) ・図書館まつり、クリスマス会 ・県立図書館団体貸出文庫借入 ・特設展示(一般・児童(毎月))市内他館の資料を中心に展示 ・ひまわりのへや(ボランティア)月1回 ・折り紙教室の開催 2/22	・こどもの読書週間行事は応募者が多く、参加した子どもには好評だった。 ・図書館まつり(参加者105人)、クリスマス会(参加者45人) ・県立図書館団体貸出文庫借入は約500冊×4回、利用者には好評。 ・折り紙教室では20人の参加があり、雛人形づくりをして好評だった。	図書館イベントの参加者が減少傾向にあり、工夫の必要がある。また、県立図書館からの団体借入本は好評であり今後も継続。	100	B	
		図書館利用者数					
		(4館) 利用者拡大に向けた図書館事業及び図書館管理システムの構築により4館の連携を図る。	4館とも対前年度比で増加した。 ・4館貸出利用者数(対前年度比) 8.2%増 ・4館貸出冊数(対前年度比) 12.5%増	広報・ホームページ・ケーブルTVを通じ新規利用者の拡大に努めたい。また、4館の連携を図り利用者の利便性をさらに向上させたい。			
		(国見図書館) 貸出利用者数 6,932人 貸出冊数 29,147冊	・貸出利用者数(対前年度比) 15.6%増 ・貸出冊数(対前年度比) 37.9%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備			
		(くにさき図書館) 貸出利用者 20,107人 貸出冊数 79,067冊	・貸出利用者数(対前年度比) 7.7%増 ・貸出冊数(対前年度比) 10.3%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備	100	A	
		(武蔵図書館) 貸出利用者数 11,315人 貸出冊数 43,869冊	・貸出利用者数(対前年度比) 12.4%増 ・貸出冊数(対前年度比) 16.7%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備			
		(安岐図書館) 貸出利用者数 12,166人 貸出冊数 56,537冊	・貸出利用者数(対前年度比) 1.6%増 ・貸出冊数(対前年度比) 2.8%増	図書館資料の充実、選書、施設の環境整備			
		移動図書館					
		(4館) 市内の小学校、11校で実施。	貸出利用者数 延べ 2,512人 貸出冊数 6,019冊、1人当たり貸出数 8.3冊	利用者、貸出冊数が年々減少傾向にあり、子どもの読書活動につながる取り組みが必要である。			
		(国見図書館) 竹田津小、伊美小、熊毛小の3校で実施	貸出利用者数 延べ 767人 貸出冊数 1,720冊、1人当たり貸出数 9.1冊	本が苦手な児童へのアプローチ。			
		(くにさき図書館) 来浦小、大恩小、富来小、豊崎小の4校で実施	貸出利用者数 延べ 782人 貸出冊数 1,883冊、1人当たり貸出数 11.8冊	本が苦手な児童へのアプローチ。	90	B	
		(武蔵図書館) 旭日小、小原小、武蔵西小の3校で実施	貸出利用者数 延べ 636人 貸出冊数 1,569冊、1人当たり貸出数 11.0冊	本が苦手な児童へのアプローチ。			
		(安岐図書館) 安岐小を低学年と高学年に分けて実施	貸出利用者数 延べ 327人 貸出冊数 847冊、1人当たり貸出数 3.6冊	今年度、6月から実施しており、生徒数も多く児童の関心が低い。			
		(2) 指導者の育成と団体等の活動支援					
		女性団体の育成	市連合婦人会の育成・指導	補助金の支給(120万)	市内駅伝や男女共同参画事業などに事業に協力をしているが、活動内容の広報を行い、会員に増加を図る必要がある。また、女性団体のリーダー的な存在となり、地域活性化の主体となっていく必要がある。	90	A
豊の船の育成・指導	補助金の支給(国東・武蔵2町の各団体へ支給)		県が事業として行っていた豊の船事業はすでに終了しており、当時の参加者が自主的に組織運営しており、今後はボランティア活動など自主運営に向けて検討する。	100	A		

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がりが目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯学習の振興	(3) 生涯学習関連施設の整備充実と活用						
	総合文化センターの管理 (アストくにさき)	アストホール他貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率(見込み) アストホール=18.8%(14,820人) マルチホール=50.5%(11,190人) スタジオ=64.3%(621人) キヤリ=27.3%(929人)	キヤリの利用が少ないが、人数は60%伸びた。料金検討や公民館講座や作品展示の発表の場としての提供が考えられる。自主事業による有効活用を図る必要がある。	100	B	
		アストホール舞台技術業務委託 (アストホール使用日に、舞台・音響・照明の専門技術者を派遣依頼)	年間派遣技術者数 延べ180人 委託料 4,074,210円(年間派遣日数56日)	当館からの依頼に対して、未対応なし 今後とも、貸し館希望と業者派遣対応の確実性を維持	100	A	
		時間外、土日祝祭日への対応(シルバ-人材センターへ委託)	職員の超過勤務解消(日直)	予約管理及び納付書の発行、使用料の収受ができず、利用者に不便をかけているが、平日午後6時までは職員が当番制で対応している。	100	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防、衛生、空調、電気、エレベーター、舞台吊物・音響・照明等の各種設備保守点検	アグリ側は築22年、アスト側は築10年を経過。保守点検・修繕を行い施設の維持をはかる。 修繕等については、早急に対応している。	100	A	
	学習センターの管理 (みんなかん)	みんなかん貸館業務(利用度)	4月～3月までの利用人数23,801人 ホール=10,129人(稼働率51.8%) その他貸館=13,672人	公民大学等各講座の学級生の高齢化・減少が少しずつ進んでいる。	80	A	
		舞台技術業務	職員が交代で対応している。	職員の舞台技術の熟練度の向上を目指す。	90	A	
		時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(貸館業務は総合支所日直に依頼)	代休制・フレックスタイム制等の積極的な活用を行う必要がある。 生涯学習課からの業務支援を行う必要がある。	70	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防防災設備・空調機・エレベーター・舞台吊物・可動席等各種設備保守点検 生涯学習センター玄関壁・屋根修繕	建設後10年以上が経過したため、修繕箇所の早期対応の必要がある。	80	A	
	武蔵セントラルホールの管理	セントラルホール他貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率 セントラルホール15.0%(4,480人) 公民館=94.2%(10,975人)	職員による音響、照明の操作技術の習得。	100	A	
		舞台技術業務	職員	どの職員でも対応できる簡易マニュアルの作成	100	B	
	武蔵セントラルホールの管理	時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(日直)	専門職員の不足。	100	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	消防、衛生、空調、電気、舞台吊物・音響・照明等の各種設備保守点検	照明の老朽化。 緞帳、吊り物、音響修繕工事	100	A	
	安岐公民館	公民館貸館業務(利用度)	4月～3月までの稼働率(大ホール10.0%、中央公民館96.7%) 大ホール=5,515人 公民館=19,424人	施設・設備の老朽化、交通手等の不備により利用が制限される	100	B	
		舞台技術業務	職員が交代で対応。	設備・機器が不十分で、利用が制限される。	100	B	
		時間外、土日祝祭日への対応	職員の超過勤務解消(保守管理は警備会社に委託)	予約管理及び納付書の発行、使用料の収受ができず、利用者に不便をかけているが、事前予約で対応。	100	B	
		その他、施設の管理・保守点検業務	調理用レンジ交換	雨漏りに対する改修 大ホール、安岐地区公民館の耐震診断 トイレ改修(ウォシュレット)	100	C	
	(4) 学習成果の活用						
		指導者として地域等への展開	中央館で習得した内容を、今後は行政区等の身近なところで講師としての生涯学習の普及	一部地区館単位での実施が見られる	自主講座等受講者への働きかけを行う。	100	C

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
学校教育の充実	(1) 幼児教育の充実	幼稚園教育振興プランの活用	幼稚園教育振興プランにそっての保育活動を実施してきた。		100	A
	(2) 義務教育の充実					
	教育課程	授業時間数の確保	全学校において標準授業時間数の確保ができた。	児童生徒の実態に応じて標準授業時間数を確保するとともに教科等において余剰時間の活用について計画的に軽重を考えていく必要がある。	100	A
		読書活動の推進	小学校で100%(14/14)、中学校で100%(4/4)の学校で週1回以上読書タイムを位置づけている。	読書活動のねらいを明確にし国語科等の授業とつなげる活動を組んでいく必要がある。	90	B
		図書館教育の充実	標準冊数の達成率が小学校で100%、中学校で75%(3/4)である。	今年度中に蔵書率100%をめざす。	91	B
	指導方法の工夫改善	少人数指導、TT指導の実践	加配配置校はTT指導、少人数指導に取り組んでいる。	最初から指導法ありきではなく児童生徒の実態から必要かどうかを判断し取り組んでいく必要がある。	80	B
		1時間完結型授業、板書の構造化の実践	提案授業等では積極的に取り組んでいる。	教職員の意識が高まっている。	80	B
		「わたり」、「ずらし」の複式授業	複式学級のある4小学校全てで取り組んでいる。	主体的な学習態度を育てる間接指導の研究が必要である。	100	A
	英語教育の充実	ALT外国語指導助手を雇用し、英語教育の充実を図る	中学校全校を主に小学校にも派遣ができ、効果があった	小学校の希望をとり派遣していくことが大切である。	100	A
	教育の情報化	情報教育年間指導計画	小学校で100%(14/14)、中学校で100%(4/4)の学校で作成している。	全学校で作成することができた。	100	A
		ICTを活用した授業実践	社会科や理科、生活科等で実践している。	視覚的機器の充実により全学校で取り組んでいる。今後はより効果的な活用方法を研修していくことが必要である。	70	B
	体験活動	体験活動の実施	小・中学校とも全学校で取り組んでいる。	教科の関連性を持たせていくことが必要である。	90	B
		国東市歴史体験学習館等の活用	小学校で78%(11/14)、中学校で50%(2/4)の学校で活用している。	市のバス利用もあるので、年間指導計画に位置づけておくことが必要である。	72	B
	授業公開	授業公開の実施	全学校で実施している。	日常の中でも必要に応じて授業の相互公開を行なっていく意識をもつことが必要である。	100	A
		「学校だより」の配布	全学校で作成、配布している。	各学校で工夫した学校便りが発行されている。	100	A
	情報公開	学校施設の公開	小学校で100%(14/14)、中学校で100%(4/4)の学校で地域等の要望に応じて施設の公開を行なっている。	施設の公開を通して地域のコミュニティーとしての中核的役割を果たしていくことが大切である。	100	A
	学校評議委員会	学校評議委員会の実施	全学校で年3回実施している。	今後も意見等を学校運営に生かしていくことが大切である。	100	A
	学力向上会議	学力向上会議の実施	全学校で年2回実施している。	意見等を学校運営・授業実践に生かしていくことが大切である。学校側の会議の運営での工夫が必要である。	80	B
		小学校、中学校学力問題等連絡会の実施	全中学校ブロック(4ブロック)で年3回実施している。	意見等を学校運営・授業実践に生かしていくことが大切である。	100	A
	学校評価	自己評価の実施	全学校で実施している。	指導の工夫改善に生かしていくことが大切である。	100	A
学校関係者評価委員会の設置、実施、公開		全学校で実施している。	評価項目の見直し、評価の客観性を高めていくことが必要である。	80	B	
学事について	入学式、卒業式、運動会(体育大会)での国旗掲揚・国歌斉唱	全学校で儀式的行事及び体育的行事では、国旗を掲揚し国歌を斉唱している。	学習指導要領に沿って適切に指導していくことが必要である。	90	B	

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がリ目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
学校教育の充実	(3) 特別支援教育の充実						
		特別支援教育	「コーディネーター」「校内委員会」の設置、活用	全学校で位置づいている。	効果的な活用方法について研究が必要である。	100	A
			軽度発達障害児の個別指導計画の作成と実施	国東市特別教育支援員(22名)を配置し、生活及び学習の個別支援を行ってきた。配置校ではすべての学校で個別指導計画が作成されている。	今後は、個別指導計画の見直しと効果的な学習内容や指導法の研究が必要である。	90	B
			関係機関との個別支援計画の作成・実施	個別支援計画を作成している学校が小学校で83%(10/12)、中学校で50%(2/4)である。	特別支援学校に学びながら、関係機関と連携を行なっていく個別支援計画の作成が必要である。	75	B
			特別支援教育支援員の活用	希望している全学校に配置できた。	研修や指導法の研究を行い、支援員の資質の向上を図っていく必要がある。	90	B
	特別支援学校サポーターの活用		日出養護学校の支援を受けた学校が小学校で71%(10/14)中学校で100%(4/4)である。	学校の指導だけでなく、専門的な指導法を受け入れていく必要がある。	77	B	
	(4) 教職員の資質向上	キャリア教育	年間指導計画の作成	全学校で作成している。	実施しながらの改善が必要である	100	A
			職場(職業)体験学習の実践	全学校で実践している。	進路指導を見据えた指導が必要である。	100	A
		授業の相互公開	職員間の公開授業の実施	全学校で公開授業を行なっている。	学校間の差がある。多い学校で年間120回少ない学校で2回、一人1実践の取組が必要である。	70	B
			指導主事の招聘	全学校で年間2回以上招聘している。	公開授業日だけでなく、日常の校内研究でも招聘していく体制が必要である。	100	A
		県教育センター等の研修への参加	フォローアップ、キャリアアップ研修・一般研修への参加	フォローアップ研修参加者中学校1人、キャリアアップ研修参加者小学校7人、中学校1人である。	教職員自身がライフスタイルに応じた研修計画を立て主体的に参加していくことが大切である。	70	B
		教職員人事評価システム	面談	「教職員評価システム実施手引き」に沿って年間2回以上面談を持ち指導助言を行なっている。	・面談については、5月・8月・12月の年3回は必要である。評価するうえで具体的な評価基準を定めておくことが必要である。 ・自己申告の目標と具体的な方策を能力業績評価と連動させることが大切である。	90	B
			授業参観	授業参観については、面談前に実施している学校がほとんどであるが、中には年間通して実施している学校もある。	授業参観については、具体的評価基準に沿ってねらいを明確にした参観を行なうことが大切である。	90	B
		網紀肅正・服務規律	研修等の実施	全学校で実施している。	計画的な実施と意識の高揚を図るため具体的な事例を通じた研修等が必要である。	100	A
	(5) 心の問題への対応	道徳教育	標準時間数の確保	全学校標準授業時間数を確保できている。	児童生徒の実態に応じて道徳的価値による学習の時間数の軽重を図っていく必要がある。	100	A
			「心のノート」の活用、外部講師の活用	全学校で「心のノート」を活用している。	外部講師については、受け入れ体制をつくっていく必要がある。	90	B
		人権教育	系統的な指導計画の作成	全学校で作成している。	8課題を取り入れた年間指導計画を立てていくことが大切である。	90	B
			同和問題の授業実践	全学校で実施している。	系統性のあるカリキュラムの作成が必要である。	100	A
			体験的参加型学習の実践	小学校では100%(14/14)、中学校では75%(3/4)である。	人権感覚を培っていくためには、体験を通して感性を養っていく必要がある。教科等においても取り入れていくことが大切である。	94	B
		教育相談	スクールカウンセラーの活用	全中学校で活用している。要望のあった小学校(2校)にも派遣できた。	スクールカウンセラーの小・中学校の交流を行なっていくことが必要である。	100	A
			教育相談室の設置	全学校で設置している。	気軽に相談できる環境づくりのためにも小学校での全校設置が大切である。	90	B
			不登校、保健室登校児童生徒への対応	不登校については、小学校では0名(昨年2名)、中学校では3校で16名(昨年12名)、保健室登校については、小学校1名(昨年1名)、中学校で4校6名(昨年4名)である。毎月調査し必要に応じて相談員の派遣を行なっている。	行政からのアプローチではなく、学校からの積極的な連携が大切である。	80	B
			適応指導教室「フレンドリー広場」への通級指導	毎週水曜日に教育相談員や実技指導員をスタッフとして位置づけ学校・保護者と連携をとりながら実施している。	スタッフの充実、回数の増加が必要である。	80	B

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
学校教育の充実	(6) 学校施設の整備充実	校舎、施設、設備及び教具等の整備について	校舎、屋体の耐震補強の実施	伊美小学校の大規模改修により耐震化を実施	小原、旭日小学校の校舎の早期耐震工事の着手	100	A
			空調の整備の実施	小学校図書室エアコン設置	図書室未設置校については廃校になった小学校より移設	100	A
			学校修繕	国の交付金事業により本年度は充実した	老朽化の進んだ施設の対応が必要	100	A
			AEDの設置	市内全小中学校に配置済	職員の研修及びバッテリー等消耗品のチェック	100	A
			情報機器の推進(PC、TV)	教育用PCについては、学校の中で一番多い学級の児童生徒数分を、また、校務用PCについては、市内の全教員分を配備できた。TVについては、全学校に学級数分のデジタル対応TVを配備できた。	電子黒板の有効利用の推進	100	A
	(7) 学校給食の充実	食育の推進	食に関する授業実践	年間指導計画の作成及び授業実践ともに全学校で実施している。	栄養職員との連携を行なっていくことが必要である。	100	A
			衛生管理の徹底 くにさき地区学校給食調理従事者研修会 学校給食調理員衛生管理研修会	食中毒等を防止することができた	給食従事者の衛生管理の徹底 異物混入の防止 衛生管理用消耗品費等の増加	100	A
		学校給食について	健全な給食会計の運営 運営委員会の実施(4施設・4会計) 運営委員会の統合	健全な給食会計の事務処理	食材費等の高騰による給食会計の運営 今後も高騰すれば給食費の値上げ等も検討	100	B
	学校の維持管理 老朽化した施設、調理用備品の修繕	施設の修繕箇所は増加したが、給食業務に支障がなく運営できた。	老朽化した施設、調理用備品等の維持管理(施設の統合) 炊飯業務(国東・安岐)委託、統合施設等の検討	80	B		
		(8) 子どもの安全性の確保					
	安全教育	防災、防犯教育の実践	全学校で実践している。	関係機関と連携し発生時に安全に行動できる実践の態度や能力を育成することや作成している「危機管理マニュアル」の検証を行なっていくことが必要である。	90	B	
	安全対策	安全マップの見直し	小学校で100%(14/14)、中学校で50%(2/4)の学校で実施している。	全学校で定期的の実施していくことが大切である。	70	B	
		防犯ブザー、タスキの携帯、点検	・防犯ブザーについては、全小学校の児童に配布し学校で定期的な点検を行なっている。 ・防犯タスキについては、全中学校で活用し、点検を行なっている。	防犯については、日常的な指導と点検が必要である。	100	A	
		スクールガードの活用	全学校で組織できているが、小学校では100%(14/14)、中学校で75%(3/4)の学校で活用している。	学校や地域の実態に応じて効果的に活用していくことが必要である。	90	B	
	安全対策	子ども連絡所の確認、周知	全小学校で確認、周知を行なっている。	小中学校が連携して中学校でも周知徹底していくことが必要である。	100	A	
	生徒指導	生徒指導の会議、研修の開催	全学校で取り組んでいる。	定期的な持ち、積極的な生徒指導に心がけることが必要である。	100	B	
		関係機関との連携	窓口になる担当者を決め、連携がスムーズに行く体制づくりを行なってきた。	担当者のみでなく、学校組織として対応していくことが必要である。	100	B	
	保健、体育教育	系統的性教育の実践	全学校指導計画を立て、養護教諭とともに授業実践を行なっている。	3年生から6年生、中学生へと系統的な指導内容及び指導体制が必要である。	100	A	
		薬物乱用防止教育の実践	指導計画を立て、養護教諭とともに全学校で授業実践をおこなっている	3年生から6年生、中学生へと系統的な指導内容及び指導体制が必要である。	100	A	
		体力、運動能力調査の実施	全学校で実施している。	結果を日常の体育指導に生かしていくことが大切である。	90	B	

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
青少年の健全育成	(1) 健全育成活動推進体制の整備					
	青少年健全育成市民会議の組織	青少年健全育成市民会議の開催	総会6/4開催	支部活動の充実 地区公民館事業との連携	65	B
		「大人が変われば子どもも変わる」啓発	ナイト-ソフ開会式で啓発活動実施 支部ごとにイベント等で啓発活動を実施	啓発活動が中心となるが、街頭での啓発活動が予定通りできなかった	60	B
		国見支部活動				
		役員会1回・地区協議会総会3地区 生徒指導協議会等に参加	地域に根ざした活動が、学校との連携のうえに成り立っている。児童・生徒の問題事象は少なく、挨拶等基本的な行動ができています。	地区公民館制度の導入により、各地区協議会が地区公民館組織の一部となったため、行事の開催内容・予算面での学校との協議が必要。	80	A
		武蔵支部活動				
		ジュニアリーダー-研修、子ども教室	リーダーとしての資質の向上が図られるとともに、異年齢の児童との活動が展開された。	指導者の養成	100	A
		安岐支部活動	ジュニアリーダーの育成、子供会活動の推進	子供会活動の積極的な取組ができた	指導者・後継者の育成	100
	各地区公民館へ交付金事業として位置づけ	地区公民館活動交付金算定の中に、青少年健全育成事業分として組入れ(基本割+行政区数割)	地域における状況が異なるため、公民館運営委員会等での議論が求められる	90	A	
	子ども会組織・運営	国東市子ども会組織	統合はしないが、補助金は一括とした		100	A
		国見子ども会				
		各単位子ども会ごとに活動(10単位子ども会)	地区公民館行事への参加や老人クラブとの交流など、地域とのふれあいが図られた。		80	A
		国東子ども会				
		子ども会活動(各支部ごとに活動:32子ども会)	ドッジボール大会、動物将棋大会の実施	子ども数の減少に伴って、活動や子ども会が減少傾向にある。	75	A
		武蔵子ども会				
	子ども会の活動	リーダー-研修会、軽スポーツ大会を通してふれあいと友情の輪が広がった。	各町子ども会育成会連絡協議会の活動内容や単位子ども会助成金等の支給に格差が見られるため、補助金支給要件を整え、均一な事業展開を図る。	100	A	
	安岐子ども会					
	ジュニアリーダーの育成	各種行事への積極的参加		100	A	
	(2) 健全な社会環境づくり	生徒指導連盟協議会による取り組み	国東市生徒指導連盟協議会組織の変更。	学校での活動と校外指導の連携と支部活動の充実と全市画一的な取り組みの推進	90	A
	(3) 学校・家庭・地域の教育力機能の向上					
学校支援地域本部事業	昨年度武蔵中学校区で実施を全市に展開(4中学校区)	学校支援ボランティアとして学校、家庭及び地域社会の連携が図られた。	平成23年度以降は、「国東市協育ネットワーク推進事業」として展開していく	60	B	
	人材バンク加入推進	ボランティア登録者:93名	ボランティアの啓発と周知を徹底、活用面での促進	60	B	
(4) 青少年の体験・交流活動等への参画促進						
<にみっ子わくわく体験プラン	小中学校企画委員会の実施 リーダーズキャンプ・企画委員による手作りイベント・クリスマス会の開催	子ども(小・中学生)の企画による各行事に、多くの参加者があり、異年齢間交流・各種体験活動が楽しく行われた。	地域ボランティア等、実行委員会主体による事業運営への転換の必要がある。 子どもたちのスケジュールは過密気味であり、日程調整に不測の時間を要する。	90	A	
	ジュニアリーダー-	ジュニアリーダー-研修	九州大会7名参加、県大会7名参加 登録ジュニアリーダー数:14名	ジュニアリーダー-メンバーの減少・市内全域での活動の推進	70	A
	少年の船	少年の船参加(子ども会抽選、県一般抽選)	市内30名の参加 参加者相互の懇親や体験の話ができる会を設ける	異年齢交流、体験学習の場として今後とも継続する	100	A
	<にさき探検隊	スキー教室の実施(1月実施)	市内小中学校から40名の参加	内容の充実	95	A

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
青少年の健全育成	成人式	成人式の8月15日開催(市全体)(式典・写真撮影・同窓会):市内住民票居住者と市内中学校卒業者が対象	出席者275人 宣誓者については、従来の方法から個人の誓いの言葉とすることにした。 昨年に引き続き、講演会の実施(無着成恭氏)	新成人による実行委員会を開催して、開催時期や行事企画を話し合い開催していく必要がある。	90	A	
	国際交流事業	武蔵中韓国交流事業	実施していない。	合併後、武蔵中学校と安岐中学校2校の実施であり、他の2中学校との整合性を図るため、事業の継続もしくは他の交流事業形式を検討していく。	100	A	
		安岐中韓国交流事業	11月4日から6日(2泊3日)の日程で安岐中学校2年生による韓国研修事業を実施。1月12日から14日で受入事業を実施。姉妹校(彦州中学校)との交流会及び韓国の文化・市席の研修を実施し、見聞を広めた。	・受入事業については、大学入試と重なるためか、受け入れ家庭が少なく苦慮、日程の検討が必要			
		通学合宿の実施(武蔵)	武蔵中央公民館で実施(東小、西小合同)	実施していない。	原因は分室の職員の減少。職員の増員。	0	C
		ボランティア体験活動	中高生に向けたボランティアセンターの運営	高校との連携により高校生参加者の増加(国東高校JRCの活動)	中学生の参加促進	75	A
	(5)	子どもの居場所の確保					
	放課後子ども教室の実施(国東)	毎月1回水曜日開催(国小のみ月2回)	市内全域への展開	学校教育課をはじめとする関係部局との綿密な連携強化	90	B	
	放課後学びの教室実施(国東)	国東市内14ヶ所で開催	市内全域の展開		90	B	
地域文化の振興	(1)	芸術・文化団体、指導者の育成					
		市文化協会の設立	文化協会連絡会議の開催(国見・国東・武蔵)	よい意見交換の場が持てた	当面は連絡会議及び相互交流を図る高齡化による会員の減少	100	B
	(2)	文化行事等の充実					
		文化ホール事業の実施	国見生涯学習センター :みんなんかん優秀映画上映会の開催 :世界に聴く!みんなんかん講演会(植木理恵・宮本延春)の開催	平成23年9月10日(土)開催:入場者 50名 平成24年1月29日(日)開催:入場者 310名	自主事業の確保、集客努力 平成23年度、24年度2年間は、「光をそそぐ交付金」を活用して、事業の充実を図る。 (1千万円×2年)	80	A
			アストホール公演事業の実施 ・アスト春の映画会 ・「南こうせつありがとうふるさとコンサート」公演(共催事業) ・なつかしの日本映画鑑賞会 ・ミュージカル「アトム」公演 ・アスト冬の映画会	入場者数 ・アスト春の映画会:163名 ・「南こうせつありがとうふるさとコンサート」公演:715名 ・なつかしの日本映画鑑賞会:166名 ・ミュージカル「アトム」公演:1,003名 ・アスト冬の映画会:174名		100	B
			武蔵 センtral講演会(中国雑技団公演)	2/27実施:310名		100	A
		文化ホール事業の実施	安岐 安岐中央公民館	貸し館のみ	施設の不備・老朽化により運営が制限される	100	B
		芸能発表、生涯学習発表会の開催	国見文化芸能発表会(11/13 ちよるちよる祭り)の開催 公民大大学修了式(3/11)の開催	一年間の学習成果の発表が行われ、他団体との交流が図られた。	高齡化が進むなか、新規受講者の加入が求められる。	80	A
			国東				
			文化祭(11/7)	40団体の参加があり、展示(2日)から舞台発表(1日)を行った。菊花展は1週間の展示。	会員の高齡化、地区ごとに組織される協会の相互交流	80	B
	生涯学習フェスタ(2/12)		12/2第1回、1/13第2回実行委員会開催、2/12フェスタ開催 16団体舞台出演、8団体体験教室開催 集客数延べ500名	集客数、1団体の発表時間が少ない等の課題解決(フェスタの開催方法は実行委員会で協議)	90	A	
	武蔵:武蔵カルティバル(2/26・27)		発表団体・作品展示数の増	自主事業の確保、集客努力	100	A	
	安岐:公民館祭り(3月11日)	1年間の学習成果の発表	発表会場が満足な施設でない	100	B		

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
 C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価
地域文化の振興	(3) 文化財の保存					
	文化財調査委員会の開催	市指定文化財の審査答申6件/委員会3回開催/市外研修1回/県外研修1回	文化財の指定審査、調査が適切に行われ文化財の保護保存が図れた。	-	100	A
	国東市歴史体験学習館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、企画展5回、各種体験事業、講座開催、古代祭り等イベントの実施	入館者数16,457人、体験者数4,289人	施設を活用する新企画展・イベント・新体験事業等を多く開催し施設をリファインさせ利用者増を図る必要がある。	100	A
	三浦梅園資料館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、企画展4回実施。	入館者数2,114人	新企画展を多く開催し利用者増を図る必要がある。	100	A
	山溪偉人館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示の実施。	入館者76人	常時開館し、利用者増を図る必要がある。	100	B
	諸田御田植伝承館の管理・運営	管理運営実施及び常設展示、伝承活動、祭りを実施。	伝承館としての利活用が図られた。	利活用の更なる促進が必要である。	100	A
	埋蔵文化財(安国寺集落跡他)の保存活用	安国寺集落跡地の維持管理保存活用体験事業の実施。	集落跡地公園の無料開放によりその活用が図れた。	安国寺集落跡地の保存活用維持管理の強化とその活用増進が必要である。	100	A
	史跡三浦梅園旧宅の維持管理活用	国指定史跡維持管理・保存の実施、一般開放により活用がなされた。	国東市の重要な観光ルートとして一定の成果が上げられた。	更なる広報宣伝PRの徹底が必要である。	100	A
	無形民俗文化財の伝承活動に対する補助	指定伝承10団体に対する指導助成の実施により伝承活動の継続が図れた。	伝承継承がなされ、全て発表も実施された。	高齢化による後継者不足と伝承活動のあり方。	100	A
	指定文化財の環境維持管理	指定文化財の草刈等環境整備の実施。	文化財周辺草刈、常時見回りを実施し文化財の保存が図られた。	所有者の高齢化による管理困難な物件が多い。	100	A
	指定文化財の説明板設置による文化財啓発活動	文化財説明板設置・改修を行う。	説明版設置2ヶ所、改修3ヶ所、標柱補修1ヶ所を実施し、指定文化財の活用が図られた。	指定物件数が多く、事業完了に多年を要する。	100	A
	文化財調査委員による指定文化財の保存点検活動	文化財調査委員による見回り点検清掃及び盗難チェックの実施。	各地区の文化財調査委員による見回り点検・清掃が実施された。	文化財調査委員の高齢化により活動内容の見直しが必要。	100	A
	文化財愛護少年団の活動助成	文化財の学習、伝承及び清掃活動の実施	少年団13団体による学習、伝承、清掃、啓蒙活動が行われた。	小学校統合に伴い既存愛護少年団の編成が困難となりつつある。	100	A
(4) 文化財の活用						
安国寺史跡、三浦梅園旧宅史跡、歴史体験学習館等史跡・有形無形文化財を活用した事業	保存活用事業(国庫補助事業)により学習館体験事業など文化財活用事業を実施した。	古代祭り、体験活動、企画展、各種講座、を実施した。	より一層の文化財を活用した事業展開が必要。	100	A	
生涯スポーツ振興	(1) スポーツ施設の整備拡充・有効活用					
	施設整備の充実と安全指導、管理の充実	施設の老朽化が激しく、多くの修繕を実施した。2名のグラウンド整備員を配置することにより、国東・武蔵・安岐地区のグラウンド整備を行なった。国見地区の体育施設は、指定管理者の下に、整備を行なっている。	(国見)国見野球場受変電設備更新工事 (国東)野球場・陸上競技場浄化槽改修工事 野球場内野整備工事 野球場給水設備改修工事 (武蔵)武蔵B & G海洋センター屋根漏水補修工事 (安岐)体育館床改修工事	施設の老朽が激しく、計画的な改善を実施しなければならない。また、スポーツ推進計画を策定し、施設についても市民のニーズに網羅した管理、活用をしていくべき。	100	A
	(2) スポーツ団体、指導者の育成					
	総合型地域スポーツクラブの育成及び発足の推進	総合型地域スポーツクラブの育成、助言、指導。	夢さきスポーツクラブにおいて、クラブマネージャーを育成し、徐々にではあるが一入立ちできる目途が立った。武蔵町において、スポーツクラブの発足の前段階として取り組みを継続して行っている。	スポーツクラブは、行政主導型では継続が難しく、自発的なクラブ結成が望まれる。夢さきスポーツクラブのtotoの補助金が終了した。NPO法人化はせず、規模を縮小して活動していくが、財源確保のため様々なイベント等を開催していく。武蔵町では、ある団体が意欲を見せ取り組みを始めたが、安岐町では、核となる団体が無く、核作りが急務である。	100	B
スポーツ少年団の育成	スポーツ少年団の育成、助言、連絡調整	大分県スポーツ少年団35団体、国東市スポーツ少年団は36団体が登録	本年度にスポーツ少年団の連絡協議会に向けての会議を開催した。今後は各団との連携と交流を図る必要がある。	100	A	
指導者の育成及び指導体制の確立	体育指導委員協議会の開催	体育指導員協議会役員を3回開催、また、全員研修会を実施した。	平成24年度よりスポーツ推進委員に名称を変える。自らの軽スポーツ普及活動が行なえるような体制作りしなければならない。	100	A	

平成23年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

評価 A 成果が上がり目標を十分達成している B 一定の成果が上がっているが改善の必要がある
C 取組みが不十分で改善の必要がある

項目	点検・評価項目	具体的取り組み内容	成果	課題	進捗・達成状況(%)	評価	
生涯スポーツ振興	(3) スポーツ活動の普及促進						
		国東市体育協会	国東市体育協会の運営による各種事業推進	運営費の効率的執行による、各種事業を推進した	今後は本市のスポーツ振興計画を策定し、市民にスポーツに親しむ機会の提供と競技スポーツの向上を図らなければならない。	100	A
		競技スポーツの振興及び競技力向上対策の促進	第64回県民体育大会	29団体 489名が出場して、総合14位・B部5位	競技力向上を図るとともに競技人口の拡大を行わなければならない。	100	A
			第54回県内一周大分合同駅伝大会	2月20日から2月24日にかけて実施 成績：総合12位・C部優勝	長距離選手の確保と発掘を図らなければならない。 女子選手については区間増設になったので特に力を注ぐべきである。	100	A
	(4) スポーツ大会等の開催						
		九州瀬戸内高等学校女子駅伝大会	毎年12月に実施される、全国高校駅伝の前哨戦と位置づけられ、西日本・九州各県・県内の高校から強豪チームが安岐町において、健脚を競う。	東北地方3校招待をはじめ、県内外から、40チームが安岐町において健脚を競った。	参加チームの案内について検討を行ない、今後の大会方向性を明確化する。	100	A
		国東市駅伝競走大会	17チームが16区間26.1km健脚を競った	272名の選手が力走して、沿道では多くの市民の応援があった。また、各地域で大会までの練習を含め多くの市民とのコミュニケーションが図れた。また、当日は多くのボランティアの協力を得ることができた。また、閉会式会場では、婦人団体の接待で市民が親睦・交流を図ることができた。	6回大会が終わり、要項等を含め監督会議で検討して、よりよい大会を目指す。	100	A
		ナイターサッカー大会	地区大会、決勝大会を開催した。	88チームの参加があり、地区予選を勝ち抜いた8チームで決勝大会を開催し、市民の親睦・交流が図れた。	試合の運営方法や要項等検討しながら、より良い大会を目指す。また、SB連盟を確立させる。	100	A
		小学生陸上記録会	小学生を対象に、陸上競技に興味を持ってもらうために開催した。	81名の参加があり、希望者は、県の選手権大会に派遣した。	大会運営について検討しなければならない	100	A
		小学生水泳教室	小学生を対象に、水に慣れ、水泳競技に興味を持ってもらうために開催した。	市内小学生23名の参加があった。	市内全域からの小学生参加者を促進しなければならない。	100	A
		小学生水泳フェスティバル	小学生を対象に、水に慣れ、水泳競技に興味を持ってもらうために開催した。	市内小学生42名の参加があった。	市内全域からの小学生参加者を促進しなければならない。	100	A
		小学生陸上競技教室	市内小学3年生以上を対象に各週土曜日の計10回、開催した。	55名の参加があり6月から11月にかけて10回開催し県大会に出場した	体育協会事業の運営について、総合型SCを活用できるようにしたい。	100	A